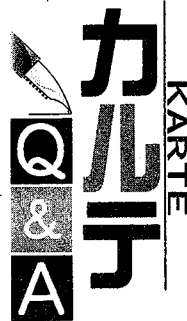


84歳の母が後天性赤芽球癆になりました。現在は免疫抑制剤のシクロスポリンを服用し、赤血球の値は改善、顔色もよくなりました。今後も服用を続けるべきか、完治はあるのか、生活で気を付けることは何か一などを教えてください。(58歳、女性)

赤芽球癆



小野祐一郎医師

高い確率で再発、内服継続を

「赤芽球癆」とは、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

「赤芽球癆」は、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

「赤芽球癆」は、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

「赤芽球癆」は、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

ビンや網赤血球が減ってしまう病気で、赤芽球癆は、先天性と後天性に分けられます。ご相談の後天性赤芽球癆は、妊娠、胸腺腫、自己免疫疾患、大顆粒リンパ球性白血病などのリンパ球増殖性疾患、悪性リンパ腫、パルボウ

「赤芽球癆」は、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

「赤芽球癆」は、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

「赤芽球癆」は、貧血を起す疾患の一つです。骨髄の中で赤血球がうまく成熟・増殖できなくなり、血液中のヘモグロ

球菌ワクチンをしっかりと接種したり、周囲の人もマスクを着用して接したりするほか、食中毒にも注意する必要があります。

(内科医会、小野祐一郎 芦屋市、芦屋駅前小野内科クリニック)

◇第1、3、4日曜に掲載します。